



Progress Report of The Medium-term Plan 2014-2018

中期計画 **2015** の取組み

2015 April





関西学院は2014年9月28日に創立125周年を迎えました。周年事業をはじめ、様々な取組みに多大なるご協力をいただきましたことに、御礼申し上げます。これまで関西学院が積み上げてきた歩みを振り返り、これからの道を築いていく上で大きな礎とする事ができたと確信しております。

さて、いよいよ学院の将来に向けて実践的行動を開始すべき年が、2015年度です。時代は21世紀型世界モデルの構築に向けて、各分野で目まぐるしい変革が起こっています。知識や知恵が重要となるソフト重視の時代において、教育と研究が果たすべき役割が極めて大きいことは言うまでもありません。今、我が国は教育を改めて見直し、立て直そうとしています。そして、関西学院もその大きな流れに積極的に関わっていく必要性を感じています。

関西学院は、2009年を起点としてその10年後を見据えた「新基本構想」とその具体的施策である「新中期計画」を策定しました。2015年度は、ミッションステートメント、スクールモットー“Mastery for Service”を堅持し、これまでの新中期計画を全面的に編成し直すことに取り組みます。まず、20年先の将来を展望し、方向性を見定める必要があります。大切なことは、これまで踏襲してきた事の中で「止めるもの」、「変えるもの」、「新しく行うもの」それぞれを明らかにし、結果を個別にまたは全体的にも時代の要請と、向かうべき方向に沿わせることです。

これらは何のために行うのか。言わずもがなではありますが、学生・生徒・児童を育て、隣人・社会・世界に仕えるため、そしてそれが彼ら彼女ら一人ひとりの自己実現に繋がることに他なりません。

20年後、さらには150周年へ向けた、関西学院の教育、研究、社会貢献活動にご理解とご協力を頂けましたら幸いです。

理事長 宮原 明

Mission Statement

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さを持って社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命とします。

School Motto “Mastery for Service”

関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”は、「奉仕のための練達」と訳され、隣人・社会・世界に仕えるため、自らを鍛えるという関学人のあり方を示しています。

※“Mastery for Service”は、C.J.L. ベーン第4代院長が1912年に高等学部長に就任した際に提唱したもので、その後、関西学院全体のスクールモットーになりました。

新基本構想

関西学院は、2009年を起点として10年後を見据えた「新基本構想」を策定しました。
新基本構想では、長い歴史の中で共有してきたミッション（使命）とスクールモットー“Mastery for Service”の現代的意味を再確認した上で、今後10年間（2009～2018）で到達すべき目標を6つのビジョンとして定めました。2014年度から後半の5年がスタートしましたが、学院をとりまく環境の変化、「スーパーグローバル大学創成支援」事業への採択、スーパーグローバルハイスクール指定を契機に、中期計画の見直しを実施しました。
2015年度は「スーパーグローバル大学創成支援」事業やスーパーグローバルハイスクールを中核として推進します。適切にPDCAサイクルを回し、計画のプロセスや進捗状況など積極的な情報公開にも取り組みます。



めざす人間像

“Mastery for Service”を体現する世界市民

中期計画について



「スーパーグローバル大学創成支援」事業採択、スーパーグローバルハイスクール指定を機に、中期計画を見直しへ

後期新中期計画 (2014年度初頭段階)	中期計画 (2015年度)																																																																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">カテゴリー</th> <th style="width: 85%;">施策名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ミッション浸透</td> <td>ミッションの学内浸透施策の推進</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">総合学園</td> <td>同窓会・後援会との協力関係強化と帰属意識の涵養</td> </tr> <tr> <td>KSC戦略本部の継続運営とKSC事務機能の強化</td> </tr> <tr> <td>アカデミックcommonsにおける学生支援</td> </tr> <tr> <td>交通アクセスの整備</td> </tr> <tr> <td>研究</td> <td>研究統合データベースの整備</td> </tr> <tr> <td>社会連携</td> <td>社会連携センター機能強化策</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">教育 (学生支援)</td> <td>課外活動団体の交流促進</td> </tr> <tr> <td>寄宿舎(寮)関連施設の整備検討</td> </tr> <tr> <td>支給奨学金の拡充／貸与奨学金の目的特化</td> </tr> <tr> <td>総合体育館・旧学生会館建て替え又は改装</td> </tr> <tr> <td>KGTV(仮称)の創設</td> </tr> <tr> <td>「障がい学生支援研究部門(仮称)」の設置</td> </tr> <tr> <td>面接環境の整備(学生支援相談室の面接室拡張)</td> </tr> <tr> <td>学生支援相談室専任(教員)カウンセラーの配置</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">教育 (教務)</td> <td>経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援</td> </tr> <tr> <td>高等教育推進センター設置</td> </tr> <tr> <td>全学的な共同学習スペース利用の活性化</td> </tr> <tr> <td>IRIによる学生の質保証</td> </tr> <tr> <td>e-Portfolioの構築</td> </tr> <tr> <td>e学生台帳の導入</td> </tr> <tr> <td>ICT</td> <td>LMSの導入・運用</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">国際化</td> <td>大学の世界展開力強化事業</td> </tr> <tr> <td>海外協定大学の増加</td> </tr> <tr> <td>海外拠点の設置</td> </tr> <tr> <td>海外協定大学とのダブルディグリー留学の拡充</td> </tr> <tr> <td>国連および国際機関・国際NPO/NGOとの連携強化</td> </tr> <tr> <td>英語による授業提供および学位を授与する体制の整備</td> </tr> <tr> <td>留学生の受入れの推進</td> </tr> <tr> <td>9月入学制度と3.5年卒業制度の確立</td> </tr> <tr> <td>留学生宿舎の安定確保</td> </tr> <tr> <td>海外への学生派遣の推進</td> </tr> <tr> <td>欧州およびASEANの国際戦略</td> </tr> <tr> <td>国際化を担える職員の育成</td> </tr> </tbody> </table>	カテゴリー	施策名	ミッション浸透	ミッションの学内浸透施策の推進	総合学園	同窓会・後援会との協力関係強化と帰属意識の涵養	KSC戦略本部の継続運営とKSC事務機能の強化	アカデミックcommonsにおける学生支援	交通アクセスの整備	研究	研究統合データベースの整備	社会連携	社会連携センター機能強化策	教育 (学生支援)	課外活動団体の交流促進	寄宿舎(寮)関連施設の整備検討	支給奨学金の拡充／貸与奨学金の目的特化	総合体育館・旧学生会館建て替え又は改装	KGTV(仮称)の創設	「障がい学生支援研究部門(仮称)」の設置	面接環境の整備(学生支援相談室の面接室拡張)	学生支援相談室専任(教員)カウンセラーの配置	教育 (教務)	経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援	高等教育推進センター設置	全学的な共同学習スペース利用の活性化	IRIによる学生の質保証	e-Portfolioの構築	e学生台帳の導入	ICT	LMSの導入・運用	国際化	大学の世界展開力強化事業	海外協定大学の増加	海外拠点の設置	海外協定大学とのダブルディグリー留学の拡充	国連および国際機関・国際NPO/NGOとの連携強化	英語による授業提供および学位を授与する体制の整備	留学生の受入れの推進	9月入学制度と3.5年卒業制度の確立	留学生宿舎の安定確保	海外への学生派遣の推進	欧州およびASEANの国際戦略	国際化を担える職員の育成	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">カテゴリー</th> <th style="width: 85%;">施策名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">SGU施策</td> <td>スーパーグローバル大学等事業(経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援を含む) ・教育OSの刷新[ダブルチャレンジ制度] ・国際プログラムの飛躍的な拡充 ・国連等へのゲートウェイ創設 ・国際通用性のある質保証システムの構築 ・ガバナンス改革による総合的マネジメントの実現 (詳細はP.4~P.7を参照)</td> </tr> <tr> <td>大学の戦略的施策 ・高大連携と入試改革の推進 ・全学的アクティブラーニングの推進 等</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">大学のその他の施策</td> <td>研究 ・研究統合データベースの整備</td> </tr> <tr> <td>教育・学生支援 ・課外活動団体の交流促進 ・支給奨学金の拡充／貸与奨学金の目的特化</td> </tr> <tr> <td>教育・教務 ・高等教育推進センター設置 ・全学的な共同学習スペース利用の活性化 ・IRIによる学生の質保証⇒SGU 事業へ</td> </tr> <tr> <td>ICT ・LMSの導入・運用</td> </tr> <tr> <td>国際化 ・海外拠点の設置 ・海外協定大学とのダブルディグリー留学の拡充 ・英語による授業提供及び学位を授与する体制の整備 ・留学生の受入れの推進 ・海外への学生派遣の推進 ・大学の世界展開力強化事業 ・国連および国際機関・国際NPO/NGOとの連携強化 ・留学生宿舎の安定確保</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">法人施策</td> <td>ミッション浸透 ・ミッションの学内浸透施策の推進</td> </tr> <tr> <td>総合学園 ・同窓会・後援会との協力関係強化と帰属意識の涵養 ・KSC戦略本部の継続運営とKSC事務機能の強化 ・アカデミックcommonsにおける学生支援 ・交通アクセスの整備</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">大学以外の各学校の施策</td> <td>初等部 ・志願者の確保 等</td> </tr> <tr> <td>中学部 ・ICTを活用した教育環境の整備充実等</td> </tr> <tr> <td>高等部 ・学力の向上 等</td> </tr> <tr> <td>千里国際中等部・高等部 ・日本語IB 科目の実施 等</td> </tr> <tr> <td>聖和短期大学 ・入試制度の見直し 等</td> </tr> <tr> <td>聖和幼稚園 ・子ども・子育て支援新制度への対応</td> </tr> </tbody> </table>	カテゴリー	施策名	SGU施策	スーパーグローバル大学等事業(経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援を含む) ・教育OSの刷新[ダブルチャレンジ制度] ・国際プログラムの飛躍的な拡充 ・国連等へのゲートウェイ創設 ・国際通用性のある質保証システムの構築 ・ガバナンス改革による総合的マネジメントの実現 (詳細はP.4~P.7を参照)	大学の戦略的施策 ・高大連携と入試改革の推進 ・全学的アクティブラーニングの推進 等	大学のその他の施策	研究 ・研究統合データベースの整備	教育・学生支援 ・課外活動団体の交流促進 ・支給奨学金の拡充／貸与奨学金の目的特化	教育・教務 ・高等教育推進センター設置 ・全学的な共同学習スペース利用の活性化 ・IRIによる学生の質保証⇒SGU 事業へ	ICT ・LMSの導入・運用	国際化 ・海外拠点の設置 ・海外協定大学とのダブルディグリー留学の拡充 ・英語による授業提供及び学位を授与する体制の整備 ・留学生の受入れの推進 ・海外への学生派遣の推進 ・大学の世界展開力強化事業 ・国連および国際機関・国際NPO/NGOとの連携強化 ・留学生宿舎の安定確保	法人施策	ミッション浸透 ・ミッションの学内浸透施策の推進	総合学園 ・同窓会・後援会との協力関係強化と帰属意識の涵養 ・KSC戦略本部の継続運営とKSC事務機能の強化 ・アカデミックcommonsにおける学生支援 ・交通アクセスの整備	大学以外の各学校の施策	初等部 ・志願者の確保 等	中学部 ・ICTを活用した教育環境の整備充実等	高等部 ・学力の向上 等	千里国際中等部・高等部 ・日本語IB 科目の実施 等	聖和短期大学 ・入試制度の見直し 等	聖和幼稚園 ・子ども・子育て支援新制度への対応
カテゴリー	施策名																																																																	
ミッション浸透	ミッションの学内浸透施策の推進																																																																	
総合学園	同窓会・後援会との協力関係強化と帰属意識の涵養																																																																	
	KSC戦略本部の継続運営とKSC事務機能の強化																																																																	
	アカデミックcommonsにおける学生支援																																																																	
	交通アクセスの整備																																																																	
研究	研究統合データベースの整備																																																																	
社会連携	社会連携センター機能強化策																																																																	
教育 (学生支援)	課外活動団体の交流促進																																																																	
	寄宿舎(寮)関連施設の整備検討																																																																	
	支給奨学金の拡充／貸与奨学金の目的特化																																																																	
	総合体育館・旧学生会館建て替え又は改装																																																																	
	KGTV(仮称)の創設																																																																	
	「障がい学生支援研究部門(仮称)」の設置																																																																	
	面接環境の整備(学生支援相談室の面接室拡張)																																																																	
学生支援相談室専任(教員)カウンセラーの配置																																																																		
教育 (教務)	経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援																																																																	
	高等教育推進センター設置																																																																	
	全学的な共同学習スペース利用の活性化																																																																	
	IRIによる学生の質保証																																																																	
	e-Portfolioの構築																																																																	
	e学生台帳の導入																																																																	
ICT	LMSの導入・運用																																																																	
国際化	大学の世界展開力強化事業																																																																	
	海外協定大学の増加																																																																	
	海外拠点の設置																																																																	
	海外協定大学とのダブルディグリー留学の拡充																																																																	
	国連および国際機関・国際NPO/NGOとの連携強化																																																																	
	英語による授業提供および学位を授与する体制の整備																																																																	
	留学生の受入れの推進																																																																	
	9月入学制度と3.5年卒業制度の確立																																																																	
	留学生宿舎の安定確保																																																																	
	海外への学生派遣の推進																																																																	
欧州およびASEANの国際戦略																																																																		
国際化を担える職員の育成																																																																		
カテゴリー	施策名																																																																	
SGU施策	スーパーグローバル大学等事業(経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援を含む) ・教育OSの刷新[ダブルチャレンジ制度] ・国際プログラムの飛躍的な拡充 ・国連等へのゲートウェイ創設 ・国際通用性のある質保証システムの構築 ・ガバナンス改革による総合的マネジメントの実現 (詳細はP.4~P.7を参照)																																																																	
	大学の戦略的施策 ・高大連携と入試改革の推進 ・全学的アクティブラーニングの推進 等																																																																	
大学のその他の施策	研究 ・研究統合データベースの整備																																																																	
	教育・学生支援 ・課外活動団体の交流促進 ・支給奨学金の拡充／貸与奨学金の目的特化																																																																	
	教育・教務 ・高等教育推進センター設置 ・全学的な共同学習スペース利用の活性化 ・IRIによる学生の質保証⇒SGU 事業へ																																																																	
	ICT ・LMSの導入・運用																																																																	
	国際化 ・海外拠点の設置 ・海外協定大学とのダブルディグリー留学の拡充 ・英語による授業提供及び学位を授与する体制の整備 ・留学生の受入れの推進 ・海外への学生派遣の推進 ・大学の世界展開力強化事業 ・国連および国際機関・国際NPO/NGOとの連携強化 ・留学生宿舎の安定確保																																																																	
法人施策	ミッション浸透 ・ミッションの学内浸透施策の推進																																																																	
	総合学園 ・同窓会・後援会との協力関係強化と帰属意識の涵養 ・KSC戦略本部の継続運営とKSC事務機能の強化 ・アカデミックcommonsにおける学生支援 ・交通アクセスの整備																																																																	
大学以外の各学校の施策	初等部 ・志願者の確保 等																																																																	
	中学部 ・ICTを活用した教育環境の整備充実等																																																																	
	高等部 ・学力の向上 等																																																																	
	千里国際中等部・高等部 ・日本語IB 科目の実施 等																																																																	
	聖和短期大学 ・入試制度の見直し 等																																																																	
	聖和幼稚園 ・子ども・子育て支援新制度への対応																																																																	

「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択

2014年9月、平成26年度文部科学省「スーパーグローバル大学等事業 スーパーグローバル大学創成支援」(タイプB: グローバル化牽引型)に、関西学院大学の構想「国際性豊かな学術交流の母港『グローバル・アカデミック・ポート』の構築」が採択されました。「スーパーグローバル大学創成支援」は、高等教育の国際競争力の向上を目的に、世界レベルの教育研究を行うトップ大学(タイプA)や国際化を牽引するグローバル大学(タイプB)を重点支援する国の施策です。

キーワード 1

教育OSの刷新「ダブルチャレンジ制度」

「ダブルチャレンジ制度」は、全学生が自身の所属学部や主専攻の学び(ホームチャレンジ)に加えて、異なるものとの出会いの場「アウェイチャレンジ」に挑戦する独自の教育OS(Operating System)です。アウェイチャレンジには「インターナショナル」(留学等の国際交流)、「ハンズオン・ラーニング」(社会での実践型学習)、「副専攻」(他学部での体系的な学び)の3プログラムを設けます。

「アウェイチャレンジ」を通じて、学生は、将来グローバルに活躍するために不可欠な資質である「主体性」「タフネス」「多様性への理解」を身に付けます。

アウェイ・チャレンジ ①

インターナショナルプログラム

「母国を出て、世界を知る」ためのプログラムです。

本学では、2014年12月現在、世界各国の170を超える大学と学術交流・学生交換等の協定を締結しています。

海外大学への留学のほかにも、開発途上国で国連等が行っている国際協力事業に参加したり(「実践型“世界市民”育成プログラム」等)、カナダの学生とペアでインターンシップ等を行ったり(「CCC(クロス・カルチュラル・カレッジ)」)と、グローバル時代に真に必要な能力を身につける本学独自のプログラムが多くあります。

こうした海外派遣プログラムでは、留学前、留学後、社会人になってからのキャリア形成など、中長期のキャリアプランに配慮して制度を設計しています。

また、海外派遣のほかにも、本学キャンパス内で留学生と一緒に学ぶ「フュージョン(融合)」プログラムもインターナショナルプログラムに含まれます。

アウェイ・チャレンジ ②

副専攻プログラム

「学部を出て、他分野を学ぶ」ためのプログラムです。

本学では、1970年代から「学部の垣根を越えた教育プログラム」の提供、複数分野専攻制や最短4年間で2学部の学位を修得できる「マルチプル・ディグリー制度」の導入など、専門領域だけにとらわれない、多角的な教育制度・人材育成に早くから取り組んできました。本構想では、こうした学生の副専攻選択をさらに拡張します。

アウェイ・チャレンジ ③

ハンズオン・ラーニング・プログラム(実践型学習)

「学校を出て、実社会を経験する」ためのプログラムです。

本学ではこれまでも、社会とのかかわりを教育現場で重視し、宝塚市と本学の包括的な連携協定をもとにした「学生による『劇場空間・宝塚』の都市再生」プロジェクトなど、数々のユニークな実践型教育に取り組んできました。これらの実績をもとに、実践型学習をさらに進化させます。特に、下記のポイントに注力して、プログラムの開発を進めています。

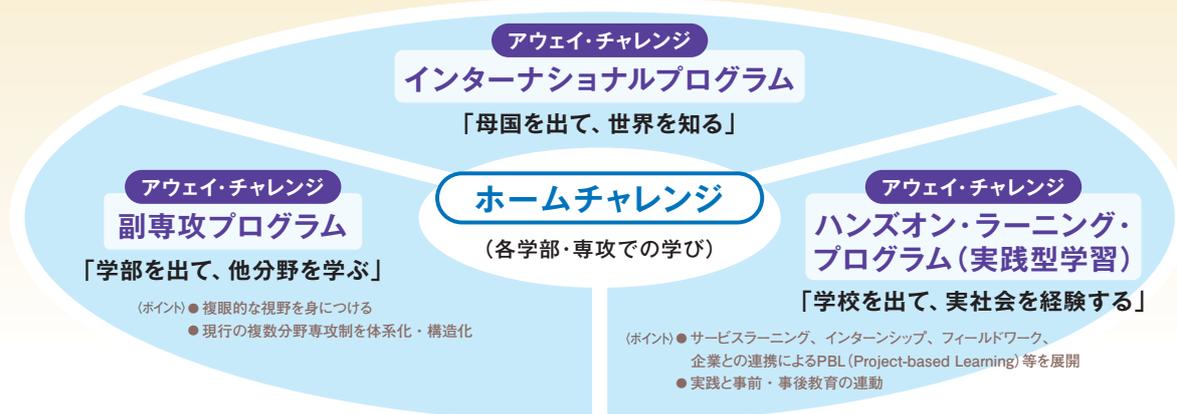
- (1) サービスラーニングやPBL(※)などのアクティブラーニングを実社会で展開
- (2) 実践と事前・事後教育の連動
- (3) 起業家育成プログラムの創設

※PBL=Project-Based Learning(課題解決型学習)

全学生に課す「ダブルチャレンジ制度」

異なるものとの出会いの場「アウェイチャレンジ」で、全学生が「主体性」「タフネス」「多様性への理解」を深める

→ 2019年度入学生から全員に課す構想



キーワード 2

国際プログラムの飛躍的な拡充

本構想において、関西学院大学は質を重視した国際化を推進するため、「海外協定校との交流拡大を可能とする環境整備」を行います。

2014年12月現在、38か国・地域の170大学・機関と学術交流／学生交換協定を締結しています。この協定ネットワークをさらに広げると同時に、学生の派遣・受入ともに質量両面での拡充を進めていきます。

これらの目標を実現するために、クォーター制の導入、英語で教授する授業等の拡大、全科目のシラバス英語化やナンバリングなど、教育環境の抜本的な改革を行います。また海外拠点を現在の2拠点(中国・吉林、カナダ・トロント)に加え、中国南部とASEAN地域にも新設予定です。

●● 派遣

協定にもとづく海外学生派遣数日本一

本学の海外協定大学への年間学生派遣数は、2012年の調査で全国第4位にランクしています(独立行政法人日本学生支援機構調べ)。本学では、この数を2022年度までに年間2,500人以上とし、日本一となることをめざします。この結果、全学生の約半数が、在学中に海外協定大学への留学を経験することになります。また、本学のユニークな取組である国連ユースボランティア、国際協力機構(JICA)、国際赤十字への派遣など、国際貢献の実践を主目的とした学生の海外派遣もいっそうの拡充をはかります。

また、派遣学生数を単に増加させるだけでなく、留学前・留学後の教育も体系的に整備します。

●● 受け入れ

海外からの留学生受け入れを1.6倍、年1,500人に

本学は、英語による授業だけで学位が修得できるコースを大学院経営戦略研究科、理工学研究科など複数に設けています。こうした英語学位コースに加え、協定大学との交換留学生向けにアレンジされた「日本・東アジア研究プログラム」(1 Semester～1年)や短期日本語研修プログラム(約3週間)など、留学生を対象とした教育プログラムを多く提供しています。

留学生受入体制をいっそう充実させ、受入数を現在の1.6倍、年間1,500人にまで高めます。

●● 融合

全留学生にパートナーを配置

本構想において重視していることの一つに、日本人学生と留学生の「融合(フュージョン)」があります。本学では従来から留学生の学習機会向上と在学生の国際交流のために「日

本語パートナー」「インターナショナルパートナー」制度を設けています。

また、すでに実施中の国際交流プログラム「インドネシア交流セミナー」や「日加学生協働プログラム Cross - Cultural College」のような、海外協定大学の学生と本学学生が共に学ぶプログラムを拡充します。さらに、日本人学生と留学生が一緒に暮らす「混住型国際教育寮」3寮の新設も計画しています(そのうちの一つである女子寮は2015年4月開設)。

国際プログラムの飛躍的な拡充



キーワード 3

国連等へのゲートウェイ創設

—国際機関への邦人職員輩出に寄与—

本学では、約20年前から、国連と密接に連携した教育プログラム群を展開してきました。ニューヨークの国連本部で実施する学生研修のほか、アジアの大学では初めての、国連ボランティア計画と協定を結んだ途上国への学生派遣の科目(国連ユースボランティア制度)もあります。2013年度からは、「『国連ユースボランティア』派遣日本訓練センター」を設置し、他大学の学生にも門戸を開きました。この取組は、「関西学院大学モデル」として、国連から各国に紹介されています。これらを基盤に、「世界の公共分野で活躍するグローバルリーダー」を育成するためのプログラムを体系的に整備し、国際機関への日本人職員輩出という国家的課題に寄与します。

【大学院共同プログラム「国連・外交コース」】

英語での授業、実務家教員による演習科目やインターンシップ等で実務的な知識・経験を養います。

☆2017年4月開設予定

【学部生向け副専攻プログラム「国連・外交プログラム」】

国連や国際機関、外交を体系的に学べる副専攻プログラム。大学院「国連・外交コース」への準備にも最適です。

☆2017年4月開設予定

【関西学院大学国際機関人事センター】

国際機関で活躍するまでの道のりを、外務省国際機関人事センターと連携しながら長期的にサポートします。

【国連グローバル・コンパクト支援関学センター】

企業、大学が国連の諸原則に則り活動するよう働きかける国連グローバル・コンパクト。その西日本での活動を支援します。

国連・国際機関等の職員を輩出する包括プログラム



キーワード 4

国際通用性のある質保証システムの構築

高等教育推進センターを中心に、「国際通用性のある教育の質保証」の確立に取り組みます。

国際的チューニングモデルの確立

世界の高等教育界では、教育の目標(学習成果)について産業界と共同して基準を作る「TUNING(チューニング)」に取り組んでいます。本学は、実際に導入に携わった米国・ユタ州立大学の専門家との共同研究を通じて本構想への適用方法を分析・検討し、分野別質保証を実施します。そして学問分野を選定して、米国の研究者との間で国際的チューニングの導入モデルを確立します。

学習成果検証方法の確立・導入

世界の高等教育界において「質保証」の中心的テーマの一つとして議論されているのが、学習成果の検証方法です。本学は、米国の州立大学機構等が始めたプロジェクト“Multi-State Collaborative”(以下 MSC)にオブザーバーとして参画しています。MSCは、米国におけるこれまでの学習成果測定方法をさらに前進させる新たなモデルづくりに取り組んでおり、そこで得られた知見を活かし、本構想における国際的質保証体制の構築に適用します。

IR(Institutional Research)による 学習成果検証調査の開発・運用

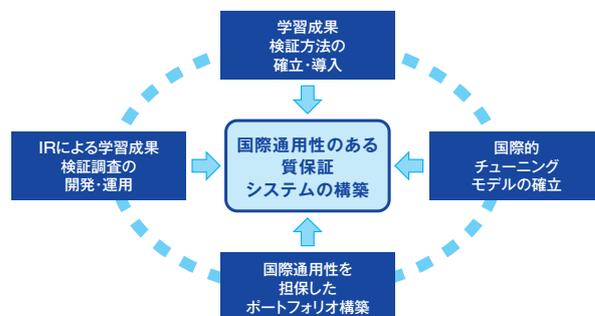
本学はこれまでもIR(※)の推進に積極的に取り組んできました。現在30以上の大学が参画している「大学IRコンソーシアム」に2012年度の発足時から参画し、在学生の学修行動に関する調査を全11学部で実施しており、自己アセスメントデータを蓄積して、学年進行による推移、年度の変化、学部間・大学間の比較を行っています。

本構想では、これまでの調査で得た知見や手法をもとに、明確な指標に基づく学習成果測定をめざした調査設計に着手します。

※IR(Institutional Research)は、自らの大学についてのデータを多面的に収集・分析し、大学としての政策立案や意思決定を支援する機能。

国際通用性を担保したポートフォリオの構築

本学は、文部科学省平成24年度「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」事業に採択された「実践型「世界市民」育成プログラム」の履修学生を対象として学修行動の振り返りを促進するポートフォリオを構築しています。今後は一層の進化・発展を図り、前述のMSC参加研究者との共同研究を通じて国際的通用性を担保した本学独自のモデルを完成させます。



キーワード 5

ガバナンス改革による 総合的マネジメントの実現

本学は、環境の変化に応じて自己変革できる体制を確立するために、経営と教学を一体化させるガバナンス改革を断行し、「総合的マネジメント」の実現を図ります。その強固な経営基盤の上に、本構想推進の全学的な司令塔として「グローバル化推進本部」を新たに設置します。

ガバナンス改革の断行

本学は、平成25年度にガバナンス改革として法人(経営)と大学(教学)を一体化させ、迅速な合意形成と意思決定を

進める体制を整えました。学長が副理事長に就任するとともに常任理事3人と副学長3人が相互に兼務する体制(通称「たすきがけ」)を制度化しました。

これらによって理事長、学長は共同で学院全体の教学と財政の計画を策定し、幼稚園から小・中・高・大学・大学院まで総合学園としての関西学院全体をマネジメントする新たな体制を築きます。

総合的マネジメントの実現

本構想では、ガバナンス改革によって経営と教学が融合し、今後は将来構想(ビジョン)に基づく全学的な教学計画、財政計画、人事計画、施設建設計画、情報環境整備計画等の連動性を高めるとともに、大学の5つの機構、各学部、各部署、学校法人内の大学以外の各学校がそれぞれ中期構想を作成し、全体の計画・構想を連動させる「総合的マネジメント」を実現させます。

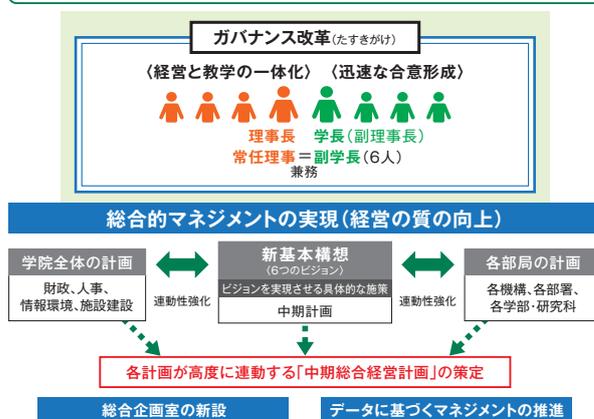
「総合企画室(仮称)」の創設

理事長・学長のリーダーシップに基づく総合的マネジメントを実現するために、大学マネジメント特有の知識・能力を有した専門職員集団で形成し、理事長・学長を直下で支える「総合企画室(仮称)」を設置します。

データに基づくマネジメントの推進

前述した「総合企画室(仮称)」において、入試・就職・ブランドイメージなどについて他大学との相対的な関係を見るデータや、中期計画の施策について進捗状況(工程評価)、アウトプット(結果)、アウトカム(成果)、インパクト(社会的影響)の評価データ等の経営戦略への活用などに取り組み、現在のIR機能をさらに強化します。

ガバナンス改革による総合的マネジメントの実現



経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援

実践型「世界市民」育成プログラム

国連ユースボランティアの成果と実績にもとづく関学だけのプログラム

平成24年度文部科学省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(全学推進型)」に本学が採択されています。

これは、「国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化の基盤」として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人を育成しようというものです。

採択された本学のプログラム「実践型「世界市民」育成プログラム」は、2004年から国連ボランティア計画(UNV)と提携して実施している世界では3校目、アジアでは初となる国連ユースボランティアの成果と実績にもとづいて作られたものです。この特色は単に留学生や国際ボランティアをする学生を海外に送り出すということだけではなく、国際社会に貢献できるたくましい人を育てるという点にあります。海外での活動後も参加した学生が力を伸ばすことができるプログラムを用意している点が特徴です。

「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」の目的に沿いながら、本学独自の特

色のあるプログラムを通じて、世界に存在するさまざまな課題を自らのものとして受け止め、足下から課題を解決し、社会を変革することのできる、つまり「世界を変える」ことのできる“実践力のある世界市民”を送り出すことがこのプログラムの趣旨です。

国連ユースボランティアなど国際社会貢献活動の派遣先



大学の世界展開力強化事業

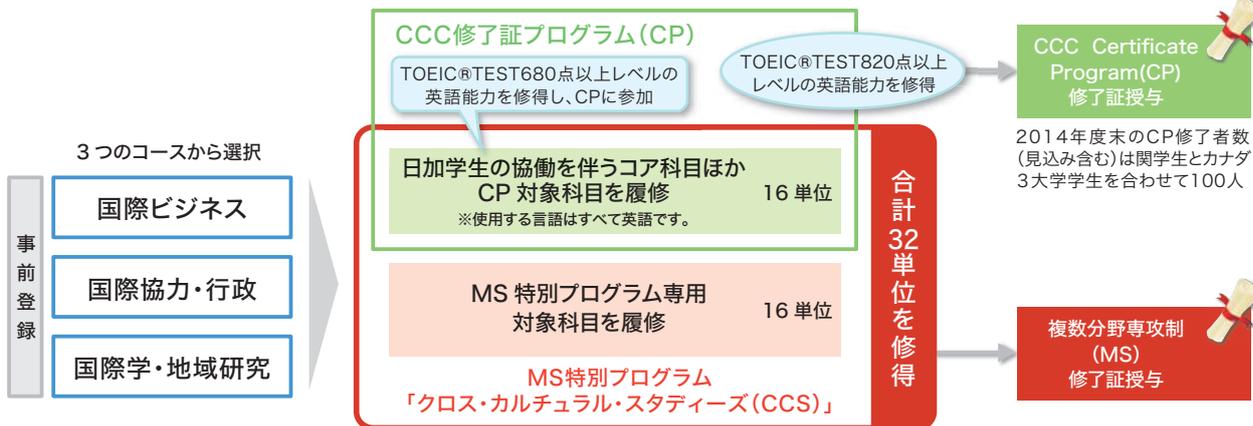
Cross-Cultural College(CCC) 日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム

文部科学省 2011 年度「大学の世界展開力強化事業(タイプB)」による支援を活用し、カナダの協定大学(マウント・アリソン大、クイーンズ大、トロント大)と共同で構築・運営している世界市民リーダーズ育成のための協働教育プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ(CCC)」を継続して運営しています。

同プログラムは、学外から高い評価を得ており、国からの補助がなくなる 2016 年度以降も、カナダ 3 大学と一層の連携を図りながら、継承していきます。



■ CCCの基本的なプログラムの流れ

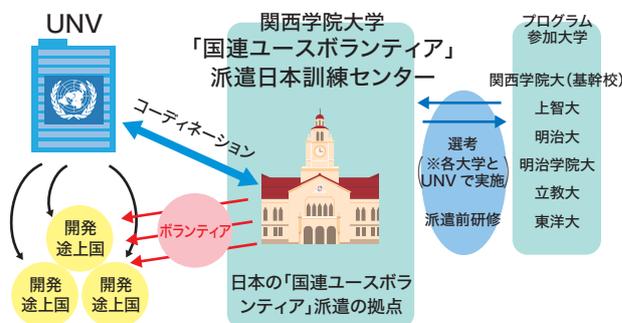


※TOEIC及びTOEFLはエデュケーショナル・テスト・サービス(ETS)の登録商標です。この印刷物はETSの検閲を受けまたはその承認を得たものではありません。

国連および国際機関・国際NPO/NGOとの連携強化

国際社会、国際協力への関心を高め、知識を得、経験を積むとともに、より多くの情報を得るために、国連および国際機関との連携を強化しています。

国連ボランティア計画(UNV)・国際協力機構(JICA)・赤十字国際委員会(ICRC)等への学生派遣、国際NPO/NGO法人、海外教育機関と連携した教育研究プログラムを開発しています。また、2013年に本学に設置した「国連ユースボランティア」派遣日本訓練センターも運営しています。

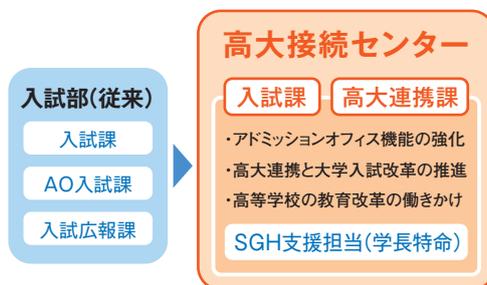


大学の戦略的施策

高大連携と入試改革の推進—高大接続センターの設置

関西学院がミッションとする「世界市民の育成」のため、高等学校教育と大学教育の円滑な接続と連携強化を図り、優秀な生徒を獲得することを目的として、「高大接続センター」を2015年4月1日から設置しました。同センターには、「高大連携課」と「入試課」の2課を置いています。

高大連携課は、SGH（スーパーグローバルハイスクール）をはじめとする高等学校に、本学の教員・大学院生・学生・留学生を派遣し、教育事業を展開し、連携を強化します。2016年度の入試改革としては、SGHとSSH（スーパーサイエンスハイスクール）を対象とした公募推薦入学試験を実施し、全学部で英語外部検定試験を出願資格としたセンター利用入試を行います。



全学的アクティブラーニングの推進

2013年4月、神戸三田キャンパスに本学にはじめてアカデミックコモンズが完成し、学生の自主学習空間としてだけでなく、様々なイベントを学生・教職員が一体となって展開する場となっています。また、2014年4月には、西宮上ヶ原キャンパスH号館にラーニングコモンズ「CReatE」がオープンし、連日、学生たちで賑わっています。同年11月には、新しく建て替えられた中央講堂内にもコモンズを設置しました。大学では、「コモンズ推進委員会」を立ち上げ、コモンズを含めた全学的アクティブラーニングを推進しています。



ボランティア活動支援組織の整備

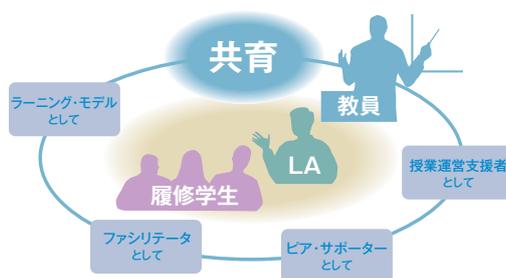
「今こそあなたの Mastery for Service を」、阪神・淡路大震災直後、学生を中心とする救援ボランティア活動が開始された時の合言葉がこれでした。以後、キリスト教主義の体現のひとつとして、関西学院ヒューマンサービスセンターが活動を引き継ぎ、ボランティアに参加したい学生とボランティア団体の橋渡し役を担ってきました。

現在、2016年4月に、大学として「関西学院ボランティア活動支援センター」(仮称)を発足することを目指しています。ボランティア活動の支援に関する基本方針についても検討中であり、それに基づいて、学生等によるボランティア活動を支援する組織として「同支援室」(仮称)を設置する予定です。



LA支援について

上級生が下級生の学習をサポートするなど、学生同士が教えあい、学びあえる環境を目指して、2012年秋から全学的なラーニング・アシスタント制度がスタートしました。2014年度は、全学部で延べ433人の学生たちが、授業で学習支援や運営補助の業務を通して、教育の活性化や高度化に貢献しています。

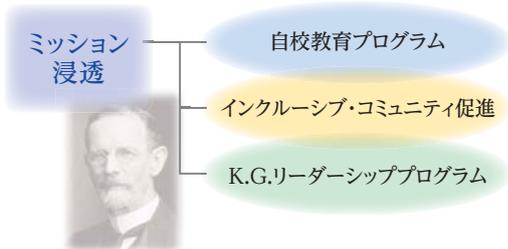


法人施策

ミッション浸透施策

関西学院のミッションを構成員に浸透し、その体現と実践を推進するため、自校教育、インクルーシブ・コミュニティ構築の活動を継続して進めています。2014年度からは新たに“Mastery for Service”を体現する関西学院らしいリーダーシップ(KG-LEMS)像を策定し啓発するためのプログラムの検討を始めています。

※KG-LEMS(Leadership Embodying Mastery for Service)



インクルーシブ・コミュニティ宣言

インクルーシブ・コミュニティ構築に向けて

〈前文〉
 関西学院はミッションステートメントに基づいて、すべてのキャンパス（西宮上ヶ原、西宮聖和、神戸三田、大阪梅田、東京丸の内、宝塚、千里国際）に、「多様性を力とする垣根なき共同体」、すなわち「インクルーシブ・コミュニティ」を創出し、維持し、発展させることをめざしています。関西学院に育まれていくこのコミュニティが、地域社会から国際社会に至るまでのあらゆる社会の包摂力の向上に寄与していくことを確信し、ここに関西学院のすべての構成員に連帯と協力の呼びかけを行うものです。

〈本文〉
 ミッションステートメントにうたわれている「学びと探究の共同体」の実現とは、多様な個性や価値観、ライフスタイルを認め合い、すべての人にあらゆることにチャレンジする機会を提供する、公正で開かれた「インクルーシブ・コミュニティ」を創りだすことにあります。このコミュニティに集うすべての者—学生・生徒・児童・園児、教員、職員、同窓、およびその家族—は、性別、年齢はもとより、国籍、人種、民族、出身地、主たる言語、宗教・信仰、身体的・精神的特徴、セクシュアリティ、あるいは経験や知識、文化や学問的背景などを異にしています。

関西学院は、こうした違いのあることを喜び、この「多様性(ダイバーシティ)」こそが私たちのコミュニティの強さであると信じています。その構成員の一部を排除するような社会は、個人の持つ力を抑圧する、もろくて弱い社会です。違いのある者同士が、互いに排除するのではなく、価値を認めあう環境を作ることは、コミュニティを構成する各個人がその内なる力を発揮することを意味しています。それによって関西学院の構成員が地域社会や国際社会に貢献していくための土台となっていくと考えます。

関西学院は、その創設時から、キリスト教主義に基づいて人権に配慮し、広く人々を受け入れる「インクルーシブ・コミュニティ」をめざしてきました。今後も、このコミュニティを実現するために、多様性に富む人々が互いに尊重し合い、それぞれの能力を発揮できる環境作りに向けた努力が求められます。そのためには一人ひとりの意識の変革と積極的かつ持続的な取り組みが不可欠です。

これからのち、私たちは、複雑で急激な時代の変化に立ち向かわねばなりません。関西学院のすべての構成員は、それぞれの学びの場において力をつけ、違いを認め合い、ダイナミックで生き生きとしたコミュニティを創りあげていくことで、地域社会から国際社会に至るまでの「インクルーシブ・コミュニティ」の構築に寄与していくうちはありませんか。それこそが、スクールモットー「マスタリー・フォア・サービス」の体現となるのです。

2014年3月6日
 関西学院院長 Ruth M. Grubel

【付記】
 ・この宣言の主旨を踏まえ関西学院の各学校、各部局の活動がなされることを願っています。
 ・この宣言の推進のために、インクルーシブ・コミュニティ促進委員会を設置し、啓発活動や情報提供を行っていきます。

各学校(大学以外)の施策

初等部・中学部・高等部

初等部、中学部、高等部が一貫教育の中核として定めた、「人格教育・全人教育」「学力」「グローバル人材育成」に関する5年間の取組みの具体化を進めます。

5年間の取組み	初等部	中学部	高等部
全人格教育・	<ul style="list-style-type: none"> ◆キリスト教主義に基づく教育活動の充実 ◆礼拝、聖書、祈りの重視 ◆カウンセリングマインドの重視 ◆児童の「自治活動」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◆キリスト教主義教育の発展と深化 ◆生徒による活発な自治活動 ◆高い人権意識の醸成 ◆初等部・高等部との緊密な連携 	<ul style="list-style-type: none"> ◆礼拝、宗教的行事の充実 ◆人権教育の推進 ◆自治活動の活性化 ◆カウンセリング力の強化
学力	<ul style="list-style-type: none"> ◆基本的学力の保証 ◆客観的評価情報の提供 ◆ICT環境の整備・更新 ◆質の高い協同的学習の展開 ◆発展的学習(力の時間、風の時間、光の時間)の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◆基礎学力の保証 ◆ICT環境の整備と学習への展開 ◆アクティブ・ラーニングと伝統的学習(傾聴・ノート取り)の両立 ◆学力の客観的な検証 	<ul style="list-style-type: none"> ◆確実な基礎学力の定着 ◆理数系教育の強化 ◆探求型学力～論文作成の充実 ◆高度なICT教育環境の実現
育グローバル人材	<ul style="list-style-type: none"> ◆英検(3～4級)の取得 ◆英検への挑戦(5・6年生全員、1～4年生希望者) ◆カナダ・コミュニケーション・ツアーの実施 ◆国際交流活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◆異文化受容と多様性に富んだ学校 ◆タフネスと問題解決能力の向上 ◆高い英語運用能力の養成 ◆英検準2級～2級、GTEC470点の取得 	<ul style="list-style-type: none"> ◆英語力：GTEC550点、英検2級準1級の取得 ◆総合的人間力の育成(プレゼンテーション力、ディベート力、コミュニケーション能力) ◆海外留学の推奨 ◆スーパーグローバルハイスクール事業の完遂

千里国際中等部・高等部

中学・高校では国内唯一の、インターナショナルスクールを同一キャンパスに併置する一条校である強みを活かし、世界市民として活躍しうるグローバルな能力(外国語によるコミュニケーション力、情報収集・分析・発信力、異文化に対する深い理解 等)を持つ生徒を6年一貫教育で育てます。



◆ 2015年度の重点項目 ◆

- ・ 5 R (Five Respects) を通じてのキリスト教主義に基づく教育を浸透させる。
- ・ 中高大を一貫する10年間のグローバル教育を進める。
- ・ 突出した特徴として、国際バカロレア (IB) の手法によるグローバルスクールとしての環境を整える。
- ・ 定員充足率の向上と併せて、収支改善に資する施策を継続的に検討する。

※5 R (Five Respects) = 自分を大切にする、他の人を大切にする、学習を大切にする、環境を大切にする、リーダーシップを大切にする、という5つの行動指針。
※国際バカロレア (IB) = 国際バカロレア機構 (本部ジュネーブ) が提供する国際的な教育プログラム。

大阪インターナショナルスクール

幼稚園から高校までを擁する国際バカロレア (IB) プログラムに基づいた学校で、生徒たちは卒業後、海外のどの大学に進学してもここでの学びを継続、発展させることができます。2015年度は、新たに中期計画のブラッシュアップを実施します。



聖和幼稚園

創立以来120年に亘って「キリスト教主義による一人ひとりの子どもたちが愛されていると感じられる保育」を大事にしています。2015年度は、子どもを取り巻く社会状況を勘案して、保育カリキュラムの再編を行い、保育実践の質向上に努めます。また、預かり保育・子育て相談・園庭開放・未就園児親子保育体験などの子育て支援も更に充実させて、地域の「子どもの園」として運営していきます。



聖和短期大学

日本における保育者養成のパイオニアとして、キリスト教主義に基づく人間性を備えた「保育の専門家」を世に送り出しています。関西学院のスクールモットー “Mastery for Service” を体現し、世界の子どもの幸せに貢献できる人を育てます。2015年度は、さらに魅力ある短大をめざし、入口・出口戦略を継続的に検討します。



社会的評価について

関西学院大学の社会的評価がどう変化してきているのか、受験生や在学生、企業等のステークホルダーから見た評価の一部を紹介します。

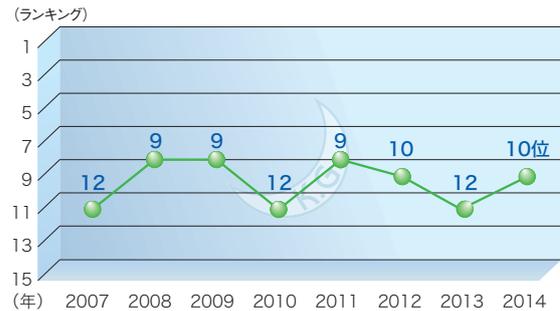
受験生

リクルートカレッジマネジメント(進学ブランド力調査:関西エリア)

志願度



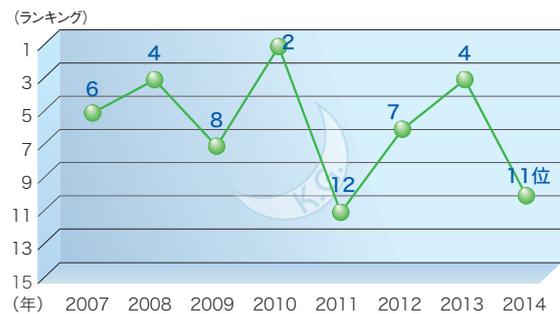
知名度



国際的なセンスが身につく



自分の興味や可能性を広げられる



(2014年調査概要)

関東エリア、東海エリア、関西エリアの高校に通っている2015年3月卒業予定者(調査時高校3年生)計74,000名を対象とし、調査表を郵送、記入後郵送で回収

国際化

週刊朝日(160大学 国際力アンケート&ランキング 2014年3月7日号)

全国160の国公立・私立大学にアンケートを実施。それらをもとに、日本人学部生の派遣・交換留学生数や外国人教師数などを4つのランキングにしている。4つのランキングのうち、ランクインしているものを3つ紹介します。

日本人学部生の派遣・交換留学生数

関西学院		1035人
全国順位	私立順位	
4位	4位	

外国人教師数

関西学院		102人
全国順位	私立順位	
9位	5位	

英語で授業を行う外国人教師数

関西学院		55人
全国順位	私立順位	
8位	7位	

文部科学省、日本学生支援機構

「官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～」

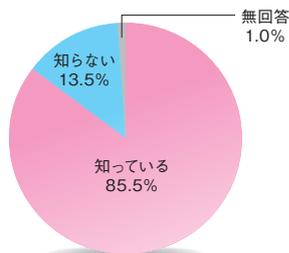
第2期生の選考結果(応募人数784人、合格学生数256人)

関西学院		4人
全国順位	私立順位	
13位	4位	

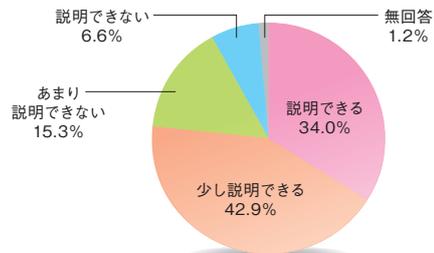
在学生

■ カレッジ・コミュニティ調査: 関西学院大学教務機構高等教育推進センター

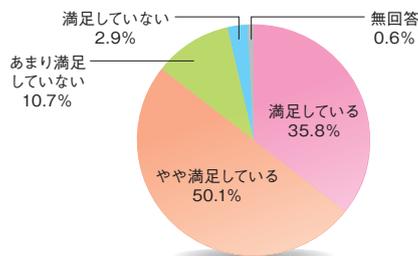
あなたは関西学院が「Mastery for Service」を体現する世界市民」の育成を使命としていることを知っていますか。



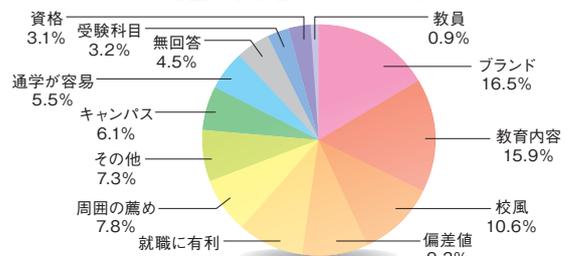
あなたはスクールモットー「Mastery for Service」の意味を説明できますか。



あなたは現在、今の学生生活にどの程度満足していますか。



あなたが関西学院大学に入学を決める際、最も重視した理由は何ですか。



対象: 本学に在学する全学部生から系統抽出法により5分の1を抽出(留学中等の学生除く) 調査期間: 2014年5月30日(金)~6月30日(月) ※上記の設問は当調査の一部です。

企業

■ 全国実就職率ランキング(大学通信)

卒業生・修了生4,000人以上の総合私立大学の中で
実就職率 7年連続No.1

(2008年3月卒業生~2014年3月卒業生)

関西学院大学
2014年3月卒業生 実就職率 86.9%

※実就職率=就職者数÷[卒業(修了)者数-大学院進学者数]×100

■ 東洋経済新報社(役員四季報 2015年版 ~トップの出身大学ランキング)

関西学院	52人
全国順位	10位
私立順位	7位

※全上場3545社へのアンケート結果に基づいている
※トップとは社長、頭取、代表執行役、代表取締役など各企業の代表者

■ 週刊ダイヤモンド(大学徹底比較 2013年10月12日特大号)

就職に強い大学 総合ランキング

関西学院	
全国順位	私立順位
18位	7位

※就職率(40満点)、上場企業就職率(40満点)、公務員就職率(10満点)、国家公務員就職率(10満点)算出。総合得点(100満点)によるランキング

上場企業就職率ランキング

関西学院	
全国順位	私立順位
14位	9位

※上場企業就職者比率=上場企業就職者÷就職者×100

文系学部就職率ランキング

(卒業生 300人以上)(関西学院大学抜粋)

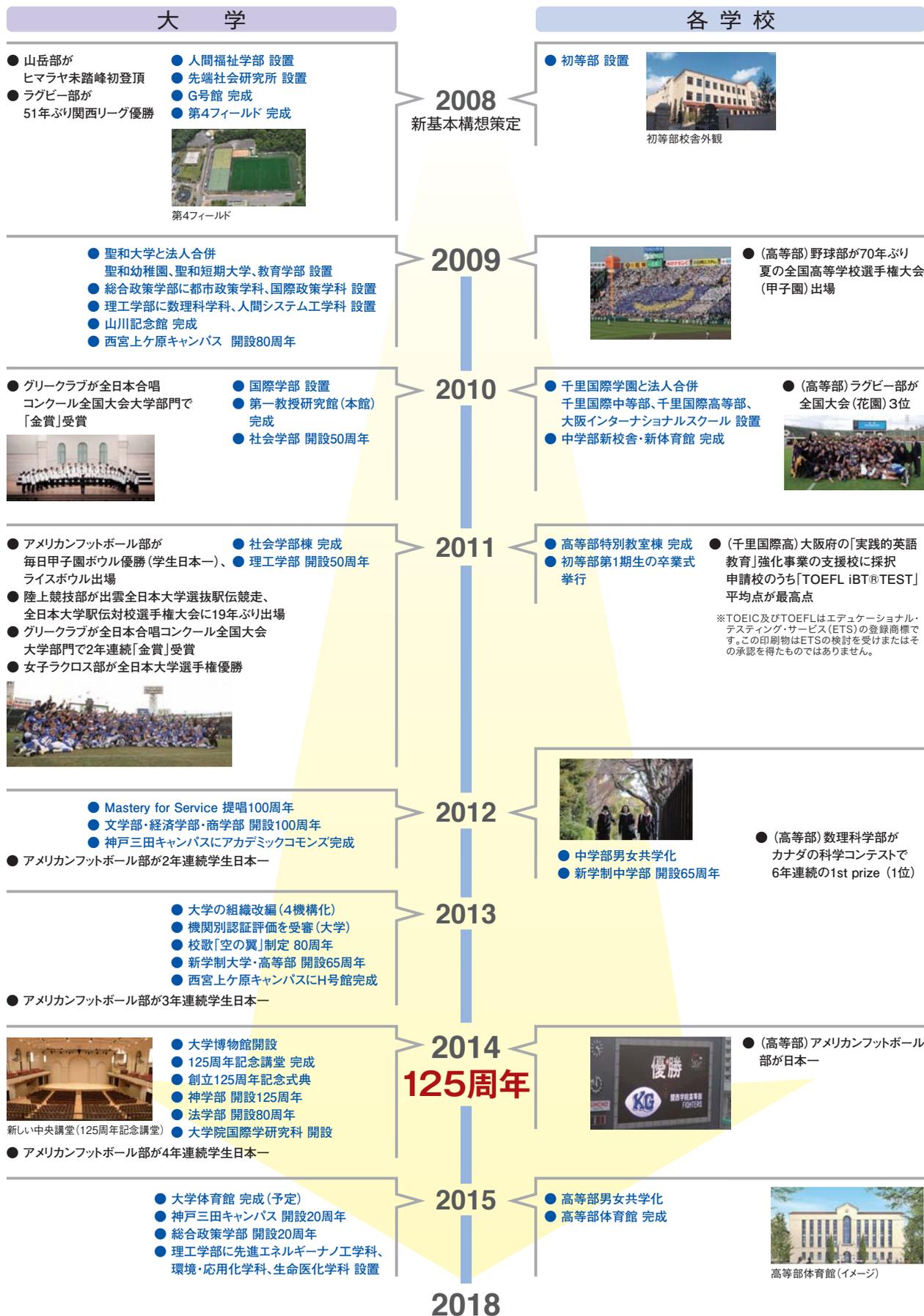
全国順位	私立順位	関西学院
4位	2位	商学部
8位	4位	経済学部
16位	10位	社会学部
25位	18位	総合政策学部

※文・教育・社会・国際・法・経済・商・経営系統の学部

就職率=就職者÷(卒業生総数-進学者)×100

進学者は、専修学校や各種学校、海外の学校も含む。就職者は、雇用期間の定めがない正規職員・従業員で、自営業者、臨床研修医を含む。卒業生総数は、9月卒業生なども含む。上場企業就職者は、雇用期間の定めがない正規職員が対象で、国内証券取引所に上場している企業に加え、その連結子会社(グループ会社)への就職者も含む。大学側で把握していない場合もある為、あくまで大学側の判明分としての数値。

関西学院の近年のうごき





〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155
TEL 0798-54-6883 FAX 0798-54-6884 (企画室)
<http://www.kwansei.ac.jp>

2015年4月1日発行